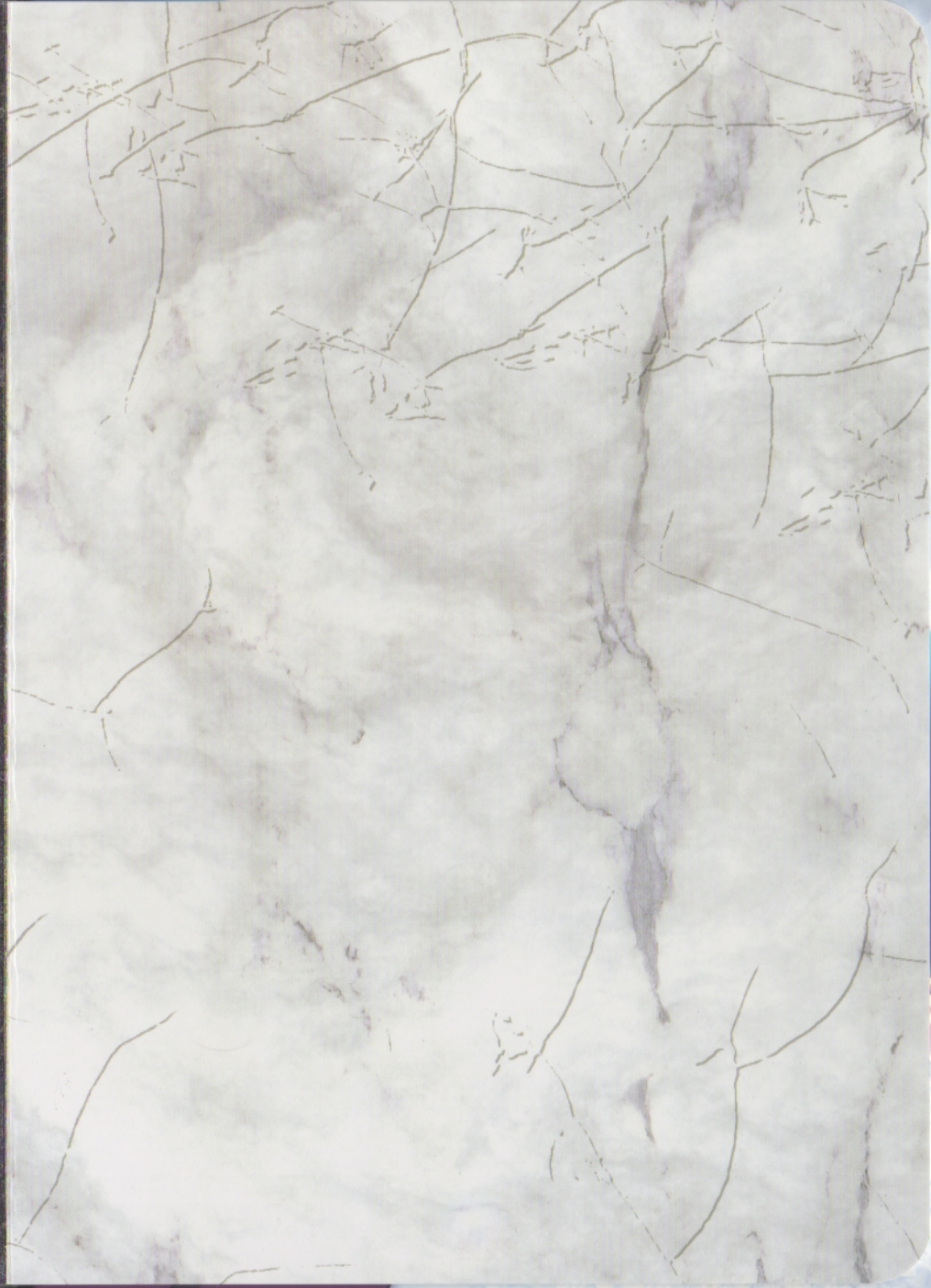
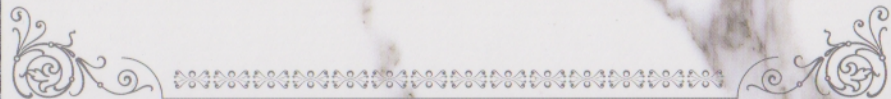


tale

Shingetsutan Tsukihime Prologue

*Story by Kinoko Nasu
Illustrated by Takashi Takeuchi*



1 それ以前。

それはとてもむかしむかし。
まだ地上がわりあい静かで、それなりに火がともしはじ
めた頃のお話です。

その星はいろいろあって、たくさんの子供たちと付き合っ
てきました。

とても小さなものからとても大きなもの、
フワフワした無害なものからガフガフした凶暴なもの、
海の中に潜むものから空の果てに進むもの。

一度も話したコトなどありませんが、とにかく大勢の子
供たちを育ててきたのです。

ですが、いつのまにかおかしな子供が生まれました。
それが今までの子供とどこが違うのか、星は説明するコ
トができません。

ただ、この生き物は違うのだと星は思い、
初めて、自分の行く末を案じたのです。

その声を聞きつけて、月の王様がやってきました。

「動くことのできないアナタの代わりに、私がアナタを守
りましょ。」



星に喚ばれた月の王様は、その赤い赤いこわくてやさし
い目で約束します。
星は喜んで月の王様を子供たちの一員と認めました。
こうして地上にはほんらい星の子供ではない月のひとが
生まれるようになったのです。

星は月の王様をおてほんにして、地上の王様を作ります。
けれど、どんなに工夫しても王様は生まれません。
そればかりか、自分の分身であるはずの月の人たちはタ
イヘンなけっかんがあったのです。
星は自分の子供たちが大好きです。

その分身である月の人が、地上の生き物を愛するのも当
然です。

けど、大好きだからって食べてしまうのはどうなのか
と星は疑問に思いました。

星は知らなかったのです。
月の王様が星を守ろうとするのは、星が可愛そうだった
からではなく

なんにもなくなってしまうた自分の国の代わりに、きれ
いな世界が欲しかっただけだという事を。

2 / その前(I)

真祖。星の代弁者としてカタチを持った月の民はそう呼ばれました。
受肉した精霊である彼等には、けれど一つの欠陥があって、だんだんと数を減らしていったのです。
吸血。管理し、処罰する対象である人間の血液を欲しがる月の民は、初めから間違っていたのでしょう。
的確でないしすてむにふりわけられる容量はないのですから、少なくなっていくのは当たり前です。
それでも真祖たちは自らの仕事を頑張ってこなします。
フルモノだった月の王様がいなくなった後、頑張って頑張って、星を織す悪魔たちと戦いました。
ですが。

◆◆◆
**人間の血は猛毒で。
精霊でも、血を吸うと悪魔になる。**

お城にはもう誰もいません。

枷は脆く、咎は重く。

罪は誰も知らず、罰さえ誰も与えずに。

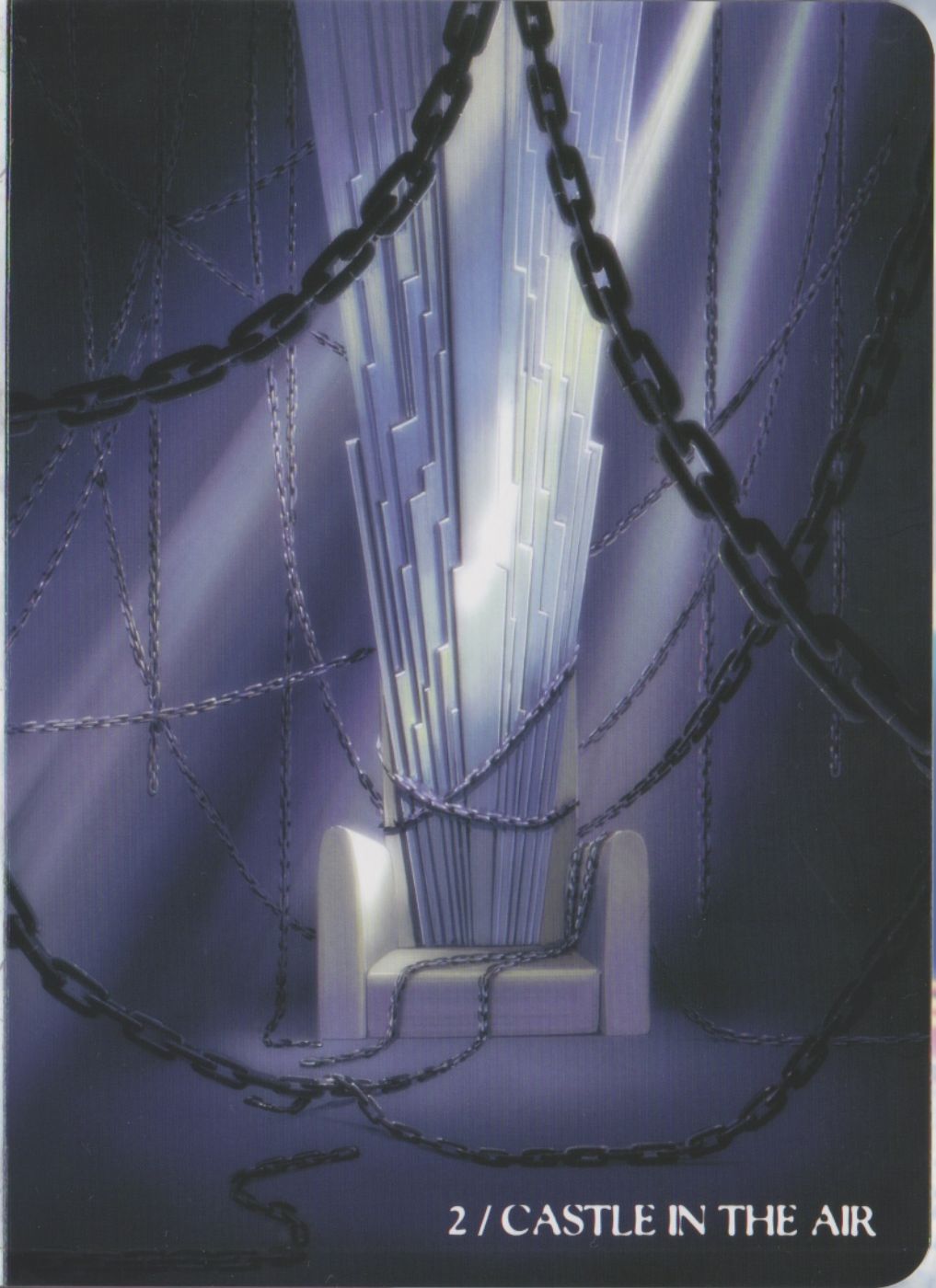
お姫さまは、今日もただだれてユメを見ます。

へつにユメ見るのが好きなワケではないのでちっとも楽しくありません。

彼女は今日も、最後のまっかな一日をユメに見ます。

楽しいからユメを見ている、なんてことはなく。

そもそも楽しいという定義を、誰も教えてあげられなかったではないですか。



3 / そのずっと前。

「あしたになったら、大人になるまでずっと眠るの」
真祖たちは無駄なコトができません。
最高の素体として生まれたお姫さまは、
最高の性能を発揮できる「年齢」になるまで
眠るコトになりました。

お姫さまは何も知らないままセカイの全てを教わって、
やっぱり何も知らないまま一時のコメから覚めるのです。

お姫さまの成人の儀には魔法使いも立ち会いました。
昔から、王子さまやお姫さまの誕生には魔法使いが駆けつけるものなのです。
お姫さまを見た魔法使いは、これだから人生は面白いと笑いました。
月の王様を追い返した魔法使いは、
その娘であるお姫さまをたいそう気に入ってしまったのです。
お姫さまも魔法使いを気に入りました。笑い顔というものを初めて見たからです。



「セル爺はなんで笑うの？ お城の人たちはみんな笑わないよ」

笑うのは己の生が楽しいからだ、と魔法使いの爺は言います。
お姫さまには楽しいという手柄も、自分が生きているという意味もわかりません。

「楽しいってどういう事？ 私にもわかるときがくるのかな」

「それは半々じゃな。まあ、おまえさんは長生きだろうから見込みはあるぞ。
そんなものはひょっこり手に入るものだ。
道端を歩き、石にしまった拍子に気がつくようなものだ。」

判っていませんはとったという事はなに」

お姫さまは首を傾げます。

言っただけの意味はさっぱりわかりませんでした。

なに、それとせ。

無駄なコトを知らないのでですから、彼女は石になって転びました。

それでも魔法使いの言葉は、なんだかたまたま大切なコトのまじりに聞かれました。

あしたになったら知らないままセカイの全てを教わって、

やっぱり何も知らないまま一時のコメから覚めるのです。



魔法使いは言ったのです。

いつか気がつく。君の人生は、目が覚めているだけで楽しいのだ。

4 / そのちよつと前。

真祖の白い姫。

目を覚ましたお姫さまは憎しみと恐れを込めて、そう呼ばれるようになりました。

最高の性能を持つ彼女は、

その力で多くの悪魔を狩りだして、捕まえて、引き裂いたのです。

何も知らない空虚なココロのまま、

悪魔たちが元々なんであったのかも知らないまま、

少なく弱くなってしまう真祖たちの期待に応えて、

たくさん吸血鬼を引き裂いて回りました。

お城の中が彼女の世界。

外に出て悪魔を引き裂いた後、お城に戻った彼女はすぐに眠って今までのコトを忘れるのです。

お姫さまは何も知らないよう、無垢で白いまま運用されました。

感情とか記憶とか、そういった余分なモノはいらないのです。

種を増やしたい、なんて性的欲求にかまけて血を吸われてはたまりません。お姫さまは最高の素体なのです。

そんなことになったら、月の王様が帰ってきてしまうのではないですか！

真祖たちはお姫さまを買っ白なまま使いました。

彼女はただ堕ちた真祖を処刑するだけのモノ。他に余分な機能なんて持たせません。リセットリセット。

何か手に入れてもリセットリセット。

けれど、一人の人間がお姫さまに恋をしました。
人間の血は猛毒です。
その赤い血は白いドレスを、







6 / CASTLE IN THE AIR, SILVERNIGHT CRADLE

6 その前(II)

いつまでも独りきり。
カラのお城は冷たいまま、長い長いユメを見る。

守るべきものもなく、
守るべき教えもなく。
お姫さまは今日も明日も変わりません。
そう、お城の人たちが死んでしまっても
やる事は一緒なのです。
目を覚まして、敵を引き裂いて、
またこうして眠り続ける。
胸にあるのは後悔だけ。
お姫さまはまっ白なココロのまま、
赤く染まった手足を縛って縛って縛って縛って。

戒めの鎖は罪の証。
咎は脆く、故に千を重ねて蓋を閉じる。

でも大丈夫、苦しいなんてコトはないのです。
お姫さまは変わりません。
楽しいコトを知らないかわりに、
悲しいコトも知らないのです。
生きている意味も死んでいく意味も知らないのです。

遠い昔、誰かが言いました。
長く生きていれば気がつく時が来る。
あれから数百年が経ちました。

魔法使いは嘘つきで、
そんなコトなんてちっともありません。
お姫さまも、そんな言葉なんて
覚えてはいませんでした。

からっぽなお姫さまは、今日も今日とてユメを見ます。
残念ですが、誰にもそれは変えられないのです。
転び方を知らない彼女が、何かの間違いで、
自分から転ぶまで永遠に。

だから、待っているのは一つの奇跡。
彼女とはまったく関係のない世界、
関係のない国で、いつか。

残酷で優しい、ひとつの出会いが生まれることを。

7 / そのあと。

君は今、新しく目を覚ました。

「君、そんなところでしゃがんでると危ないわよ」

ここは遠い国。

深い海のような青空と、果てのない草原で、

一人の魔法使いと出会った。

それは石にますますくような不注意で、

どっちが石でどっちが転ぶ役割だったかは

判らずじまい。

「私は高崎青子。君は、」

眠っていた時間が動き出す。

石膏のように真白く固まっていた心に色がついて、

閉じていた目を開けて、目に映る全てを受け入れた。

魔法使いは消えて、後には思い出だけが残った。

道はずっと続いている。

いつか、また出会える目をこめ見て、この草原にたどり着く。



7 / BLUE BLUE GRASSMOON



それが遠い異国の話。

これいほうちも関わりのない、

じますく「ト」なとて有り得ない「ト」の人生。

けれどそれ故に、眩いばかりの奇跡だった「ト」の出生。

さて。男の子のお話は、はじまったばかりです。

Shingetsutan Tsukihime

Prologue

STAFF

† FILM

Director

Katsushi Sakurabi

Character Design • Animation Director

Kaoru Ozawa

KEY Animators

Kazunori Iwakura

Kazumi Takaishi

Shinya Hasegawa

2nd KEY Animators

Misako Nomura

Animation Checker

Nobuko Ogino

Takako Kawano

Hiroki Okamoto

Animators

Takehiko Kageyama

Tomoshi Tezuka

Masahiro Sakato

Shigeki Kimoto

Yuki Imoto

Kaoru Oniki

Saki Sadanori

Mizuki Maedomari

Yukie Hiyamizu

Misako Nomura

Color Design & Paint Checker

Tomomi Andou

Digital Paintors

Ayako Suenaga

Asuka Hino

Akiko Uchida

Aya Muranaga

Syoko Mori

Miwako Suzuki

Kyousuke Ishikawa

Art Design Director

Yoshinori Hirose

Art Design

Tomonori Kuroda

Noriko Ikehata

Teruhiko Niida

Kimitoshi Sugishita

Chieko Hanada

Digital Composition Director

Kio Ookouchi

3D effect

Toshirou Hamamura

Editor

Shigeru Nishiyama

Music

Toshiyuki Omori

Animation Production

J.C.STAFF

CAST

Shiki Tohno : kenichi Suzumura

Shiki Tohno (Childhood) : Keiko Nemoio

Arcueid Brunestud : Hitomi Nabatame

Aoko Aozaki : Akiko Kimura

Doctor : Syouto Kashi

† Tale

Story by Kinoko Nasu (TYPE MOON)

Illustrated by Takashi Takeuchi (TYPE MOON)

Background & Finished by J.C.STAFF

C/G work by Norihiko Netsu (SQUARE)

† Package

Planning & Direction

Mitsutoshi Ogura

Design

Norihiko Netsu

Coordinate

Minako Arai

DVD
VIDEO



日本国内用

Pioneer

レンタル禁止



真月譚 月姫 prologue

PIBA-1416/片面・1層ディスク
3分/COLOR

© TYPE-MOON / 「真月譚 月姫」製作委員会 MANUFACTURED BY PIONEER LDC, INC., JAPAN.